

わがふるさと 元田誌 (13)

— 公職についての人々 —

会員 市野瀬 仁

まえがき

前にも述べたように、市野瀬両家と御鱒家の三家が、七坂本・尺間両地又の庄屋として、村を治めていたことは、系図や墓石等によって理解される。

しかし、ここでは江戸時代を含ま以前の家系を公稱することは遠慮して、元田出身で、明治以降から公職に就いた人を明らかにしていくことにする。公職では、村の政治にたずさわった人々と、教職に就いた人々が多いので、順を追って明らかにしていくことにしよう。

○明治村のふる

- 村長 市野瀬 平太郎 明治二十二年四月 初代村長 明治三十年七月まで八年
- 村長 市野瀬 善之 昭和二十二年四月より昭和二十五年まで三年九月(遺族)
- 助役 市野瀬 善之 昭和二十五年五月一十九年三月 継承時期 二十九年九月
- 助役 市野瀬 宗愛 昭和二十九年四月一三十二年四月三か年

収入役	市野瀬 善之	大正十五年五月一昭和十五年五月一期四年
収入役	川野 止之	昭和二十六年九月一昭和二十九年六月 応長
収入役代理	児玉 勝己	昭和二十三年三月一昭和二十五年七月
書記	市野瀬 善之	大正十五年九月一十五年九月一十八年八月
書記	河野 正之	昭和二十九年九月一十六年九月一十八か年
書記	児玉 勝己	昭和十五年二月より
書記	小野 重信	昭和二十二年一月より
書記	市野瀬 信義	昭和二十六年七月
技手	市野瀬 善之	大正四年四月より四年間
技手	市野瀬 正義	大正九年四月より(遺族)
村会議員	児玉 利次藏	明治二十一年四月より三期
村会議員	市野瀬 宇八	明治四十三年四月より
村会議員	谷川 源太郎	大正二年四月より
村会議員	市野瀬 惣次郎	大正十年四月より
村会議員	荻木 徳五郎	大正十四年四月より二期
村会議員	児玉 輝喜	昭和二十九年四月より二期

村会議員 川野 衛 昭和四年四月より三期

村会議員 市野 瀨 勝五郎 昭和八年四月より

村会議員 市野 瀨 善之 昭和十二年五月より

村会議員 兒玉 勝 乙 昭和二十二年四月より三期

○ 昭和村・弥生町に変わった

助役 市野 瀨 信義 昭和二十三年 月より

書記 荒木 友樹 昭和二十四年四月より

議会議員 川野 順 平 昭和三十一年二月より一期

議会議員 兒玉 藤 巳 昭和三十一年二月より二期

議会議員 川野 友 茂 光 昭和四十三年二月より一期

○ 学校教職員として

小学校 市野 瀨 宗 愛 昭和三十六年頃より

小学校 市野 瀨 文 雄 昭和二十四年より

小学校 大賀 又 ム 大正六年

北海道 高畑 倉 彦 大正十四年より

小学校 兒玉 紳 雄 昭和十三年より

小学校 川野 順 平 大正十一年より

小学校 川野 哲 男 昭和十九年より

小学校 河野 裕 子

高 校 市野 瀨 仁 昭和十八年より

小学校 荒木 シ 丑 昭和二十二年頃

小学校 川口 三 光 昭和十一年より

小学校 村上 慶 雄 昭和十二年頃

元田は、明治の時代から五十戸がかなう続いたが、今では四十戸ほどに減少した。それにしてもこの小部落から二人の村長が出ており、十余名の学校教職者が出ていゝること、他部落に比較して特徴的なることである。さすが、庄屋があり、百年の問文教の地であったところ、自負してよいのではなからうか。

しかし、以前は経済的に恵まれた人達のみが公職にいたたのだが、現代は能力のある者でそれき十分に發揮できる時代となったのだから、後世、元田の歴史に記録される人物が生まれることを期待してやまない。

(この項終り)

新しいことわざ

(郷に入ったら郷に従え) ○ 郷に入ったら郷を学べ

(馬鹿の二つお尻) ○ 今日日今日日の一つお尻

(住めば都) ○ 住めば都が都上
一うめ草まで下り